



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人（局長）
稲留 駿斗
（電気科3年）

工高祭
応援号4

クラスステージ

アイドルになりきりダンス 会場を沸かせたパフォーマンス

クラスステージにはダンスが12クラス、歌が1クラス、ダンスと歌が1クラス、バンド演奏が1クラス、劇が3クラス出演し、会場を大いに沸かせた。



3年電子機械科

クラスステージ3学年1位 可愛いつもりで踊った

電子機械科3年生は8人で出場し、ILOVE YOUの「くべチュして」を踊った。リーダーの横山泰士君は「アイドルになりきってメンバー一人ひとりが一番可愛いつもりで踊った。練習ではメンバーが他の準備をしていたため、全員で練習できる機会が少なかった。練習場所が教室しかなく、クラス企画の準備もあり、とても狭いため踊りのフォーメーションを十分に広げできなかった。本来は10人で踊るが、8人で踊るので空いた振付を互いに

カバーする配置に苦労した」と話した。

藤原怜士君は「踊ってとても楽しかった。観客からの反応も良く、いいステージになった。3年生のクラスステージとクラス企画はどちらも1位を受賞し、携わったメンバーがとても頑張っていた。3年生最後の工高祭は最高のものになった」と語った。

垂れ幕 カメレオンが擬態する 原画は小諸颯音君の作品

校舎外壁右側にある第51回「やろう」の垂れ幕は美術部の部員13人が6月18日から2



美術部が13人で制作した垂れ幕

他の科との差別化を図る

前代未聞のムシキングの劇

電気科3年生は劇の「ムシキング」を披露した。

リーダーの鈴木広大君は



3年電気科

「みんなが中心になってこの劇が完成した。衣装は段ボールを使用し、塗料スプレー、ガムテープを多用したクオリティの高いものができた。そのため観客からの反応も良かった。しかし、材料のガムテープが不足し、製作は前日まで続いた。ダンス中心にする予定だったが、劇として演出にスパーリングを取り入れて、他の科と差別化を図った。前日に実況も行なうことになり、これがさらに良い方向に働いたと思う。当初は十数人が参加する予定だったが、半分が離脱し、そのメンバーも引き続き衣装づくりに参加してくれたり、前日のリハーサルに駆けつけてくれて、とても良い劇になった」と振り返った。

2年工業化学科



一発ギャグをする佐藤一虎君（化2）

工業化学科2年生は「トイストーリー」の劇と一発ギャグを披露した。リーダーの佐藤一虎君は「頭の中に急に浮かんだのでトイストーリーに決めた。クラスをまとめることや役を決めるのに苦労した。出演者だけではなく、他のメンバーも小道具製作で頑張ってくれた。本番では練習の成果を出し切ることができず、声が出ていなかったり、心に火を付けられなかったのが反省点。放課後の小道具製作や準備は皆で楽しむことができた。最後に3人のアドリブの一発ギャグで締めることができて良かった。来年はクラスステージのリーダーではなく、生徒会長になって生徒会のリーダーになりたい」と語った。

小道具製作や準備楽しむ クラスをまとめるのに苦労

（化2）は「背景をアクションペインティングで仕上げることで、カメレオンが擬態する瞬間をとらえた。苦労したのは絵具が乾いてから塗るのと完成の喜びを語った。で初めの頃は1日1色しか塗

週間をかけて放課後に制作した。今年のコンセプトはカメレオンだ。垂れ幕のコンセプトは前年度の部長から後輩へ出されている。原画を描いた小諸颯音君